

**カカオ・チョコレート週刊ニュース 147号**

2017年11月20日発行  
株式会社立花商店 坂元麻美

**1、市況の動き：両市場とも続落、ロンドン先物12月限月は1600ポンドを下回る**



		11月13日	11月14日	11月15日	11月16日	11月17日	先週最高値	先週最低値	先週比	週内価格差	傾向
ロンドン先物	12月限月	1638	1606	1581	1587	1577	1642	1585	-4	61	↑
	3月限月	1665	1633	1612	1618	1607	1664	1605	-1	58	↑
ニューヨーク先物	12月限月	2201	2155	2129	2140	2131	2223	2117	-22	72	↑
	3月限月	2203	2164	2143	2143	2120	2223	2118	-20	83	↑

**2、アイボリーコースト：天候回復により収穫に期待が高まる**

農家によると、ハルマタン（西アフリカで吹く貿易風）が収穫に悪影響をもたらす可能性があるとしながらも、適度な雨と日光照射によりカカオの収穫に期待が高まっている様だ。アイボリーではカカオの収穫は10月1日以降始まるが、バルク用のカカオ豆の収穫は今の時期から1月にかけて行われる。「ここ最近の土砂降りは乾季（11月中旬～3月）が始まる前に土壌を湿らせるのに非常に助けになっている。仮に11月に毎週少しでも雨が降ってくれば2月の収穫期に特に問題が起きないだろう。」とアイボリー西部にあるカカオ地帯の中心にある Soubre 地区の郊外にいる農家 Lazare Ake が話している。

また南部の Divo 地区の別の農家の Roger Ballo は「ハルマタンがあまり早く到来しなければ、またその威力が強すぎなければ2月～3月の収穫期には非常に品質の良いカカオを手にすることができるだろう。」と述べている。

ハルマタンは12月から3月にかけてサハラから吹き降りてくる貿易風で、その強い風によりカカオポッドにダメージを与え、また土壌の水分を奪ってカカオ豆のサイズが小さくなるという悪影響を与える。

ロイターが集計したデータによると Divo の降水量は平均よりも12mm多い30.4mmであった。

Sassandra と San Pedro がある Soubre 地区では平均よりも6mm多い24.8mmであった。他の地区の降水量は下記の通り。

Daloa : 14.6mm (↑3.2mm)

Aboisso : 8.6mm (↑1.3mm)

アイボリーの先週の気温は例年より高く 25.7～28.9℃であった。



(Brown rot 病に侵されたカカオ)

### 3) アイボリーコースト：一方で、カカオの病害により第一四半期（1～3月）の収量が半減するとの懸念も

世界一のカカオ生産量を誇るアイボリーの第一四半期の収量が病害により半減するのではという見方をする輸出業者もいる。上記2)の記事にもあるが、アイボリー主産地の農家は降雨と日光照射が適度にあることで10月から始まった収穫に期待を持っている。

しかし10月から3月の間の前半に激しい降雨があるとBrown rot病やブラックポッド病の蔓延の引き金になる。ロイターのインタビューに答えた6つの輸出業者によると来年の1月から始まる第一四半期にアビジャン港とサンペドロ港に着荷するカカオ豆は30万トンから35万との予測で、前年の57万トンから大きく下落するという。

アビジャンに拠点を構える輸出業者は「昨年よりわずかに収量が少ないとしても、現状の数量は通常範囲内に留まっており、期待を大きく下回ってはいない。ただしこのまま減少して1月を迎えると安心もしてられない。」と語っている。アイボリーは世界のカカオ生産量の40%にあたる200万トン以上を生産しているが、昨年2016/2017期のカカオ先物価格の下落により農家はダメージを受けている。その影響もあり、農家が十分な農薬や肥料を手配できておらず、メインクロープに影響が出る可能性がある。Soubré地区の農家は「シーズンの序盤は生産量に問題はない。ただし連続した降雨や、農薬・肥料でのケアが不足していることによりこの先も良い状態が続くとは思えない。」と述べている。また他のリスクとしてはここ数週間続いた民族間の衝突で、何千人もの人々が強制的退避を余儀なくされていることがありカカオへの影響が懸念されている。

世界最大のカカオ産地のアイボリーの生産量はカカオ相場に大きく関係するので注目が高まります。



《お問い合わせ先、配信希望または停止のご連絡先》

株式会社立花商店 東京支店 坂元

TEL 03-5785-3545 a-sakamoto@tachibana-grp.co.jp